

「第6回 大月みらい協議会（人口問題・地域活性化を考える市民会議）」 会 議 概 要

日 時 平成27年7月28日（火）午後7時から午後9時30分

場 所 大月市民会館 4階視聴覚室

出席者 委員14名（6名欠席）

小笠原則雄、小俣理美、小鷹侑子、佐藤茂幸、志村淳、志村賢二、鈴木昌則、
中島啓介、仁科美芳、福嶋尚美、星野喜忠、三木範之、武者稚枝子、渡辺勝

【事務局】 企画財政課上條課長、地域活性化担当石井リーダー、榎本、堀内

1. 星野議長あいさつ

皆さんこんばんは。蒸し暑く、雨も降ったりということで、足元が悪い中、お集まりいただきありがとうございます。

さて、少し話しが違いますが、子どもたちが夏休みになると、NHKラジオでは、午前中に「夏休み子ども科学電話相談」という番組をやっています。かなり長く続いている番組で、大人が聞いても楽しく、その中で子どもが質問を行い、相談員が答えるという内容なのですが、聞いていてすごいなと感心することがあります。どんな内容かというと、「日本海と太平洋の境はどこかに線が引いてあるのですか？」「雲はなぜ落ちてこないのですか？」「ひまわりは太陽に向かって東から西へ動くようですが、夜は戻るのですか？」「魚や虫にも心はあるのですか？」というような内容です。

なぜこのようなことを話すかと言うと、少し哲学めいています、その中にこのような質問がありました。「生物の多様性ってなんですか？」 その相談員の答えがおもしろかった。「多様性のないものは滅びます。例えば植物が一種類しかなかったらそれは滅びていきます。滅びる要因や要素は様々ですが、人間や動物も同じです。」

今日おいでの委員の皆様は、多様の中での最たる方々だと思います。多様に富んだ方々の意見をまとめることは大変難しく、困難であると思います。ただ、皆様から出していただいたアイデアから、この会議は一体、どのような方向性で進んでいくのか、コンセプトは何なのかということをつまえていかなければならない。また、私たちは月に1回会議を行っています、もう少しディスカッションのスピードを上げていかなければならないと思っています。

そうは言っても、皆様のお力なくしてはできません。最初からこのような話しをして恐縮ですが、今日はよろしくお願ひします。それでは、議事に入りたいと思います。

2. 議事

(1) アイデアについて

【事務局】

前回の会議後、提案していただいたアイデアについて、委員の皆さんから追加、修正等の意見はなかったので、このアイデアを事務局で整理させていただきました。

整理の方法としては、先日、市の生きがい創生委員会において、今後策定予定の大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略における、5つの基本目標を設定しました。これは国や山梨県の基本目標を勘案する中で設定しています。この基本目標ごとに、皆さんのアイデアを分類・整理させていただきました。この枠組みにおいて、大月みらい協議会の皆様に、3つの小グループに分かれてもらい、皆さんのアイデアを、この5つの目標のコンセプト、テーマの内容について話し合いをしてもらいたいと思います。具体的な進め方については、(2) ワークショップにおいて、佐藤副議長から説明及び進行をお願いいたします。

＜大月市まち・ひと・しごと創生総合戦略基本目標＞

- ①雇用について
- ②人口減少対策について
- ③結婚、出産、子育てについて
- ④暮らしやすいまちづくりについて
- ⑤人材育成、郷土愛を育む教育について

(※表現については粗削りなもので、今後検討を行っていく予定。)

＜検討する基本目標＞

グループ A ①雇用について、②人口減少対策について

グループ B ④暮らしやすいまちづくりについて

グループ C ③結婚、出産、子育てについて、⑤人材育成、郷土愛を育む教育について

(2) ワークショップ 【佐藤副議長進行】

＜ワークショップの趣旨＞

(1) 大月市に提案に関わるゴール (【成果1】【成果2】)

① 8 2 件の提案アイデアの傾向を整理・分析することで、大月市の地域政策・活性化事業の方向性 (コンセプト) を明らかにする。本日ワークショップでは、ポジショニング・マップをもってこの素案を作成する。

② これを大月市総合戦略のコンセプト案として大月市に提示し、みらい協議会の一つの成果とする。

(2) 私たちが主体的に関わる地域活性化のゴール (【成果3】)

- ① 市民（事業者、NPO、産学官言金連携体）が主導する「大月みらいプロジェクト（仮称）」を志向する。
- ② したがって、みらい協議会を通じて、人と人、組織と組織、活動と活動をつなげ、有効な事業プロジェクトを形成する。本日ワークショップでは、こうした関係性構築を意識して進行する。
- ③ 次の段階として、プロジェクト企画のための「分科会（部会）」を2～3つ程度設置することを検討する。
- ④ 「大月みらいプロジェクト」は、大月市の地方創生・総合戦略や総合計画のなかに、盛り込んでもらい市の事業の一環となるように調整を図る。

<今回のワークショップのゴール>

- (1) 5つの基本目標に対する政策アイデアのポジショニング・マップを作成し、協議会メンバーが志向した政策の方向性を可視化する。
 - (2) ポジショニング・マップから、重点化すべき戦略コンセプト（案）を文章化する。
- 例：○「東京一大月ラインの二拠点共住による里山ぐらし」のライフスタイル創造戦略
- 「人口が減少しても生活機能が維持できる」の脱地方消滅のまちづくり戦略
 - 「林業再生による治水と地産エネルギー」の環境の仕事づくり戦略
 - 「福祉・観光・農業」の地域リーダー育成戦略

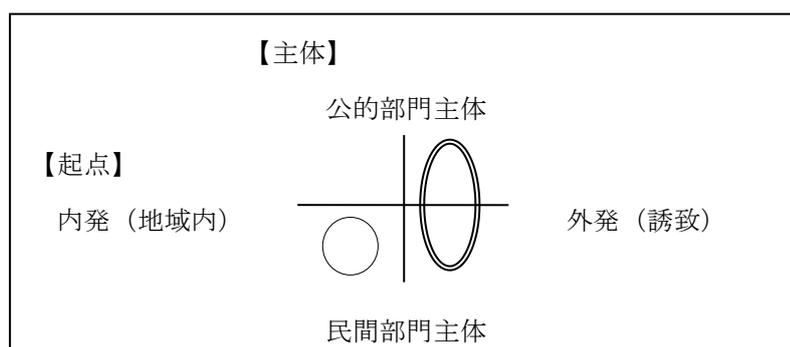
【ワークショップ結果】

①雇用について（グループA）

<キャッチコピー> 来る者拒まずの誘致

- ・提案されたアイデアを分析すると、誘致に関するアイデアが多かった。地域内よりも外発の誘致の傾向が強かった。
- ・大きな企業を誘致するに広い土地がなく厳しい。1つの大きい企業を誘致するのではなく、小規模で様々な分野の企業を数多く誘致する方が良い。こちらが企業を選別している場合ではないということでこのキャッチコピーを設定した。

<ポジショニング・マップの設定軸とアイデア傾向> ※◎や○印はアイデアの傾向分布

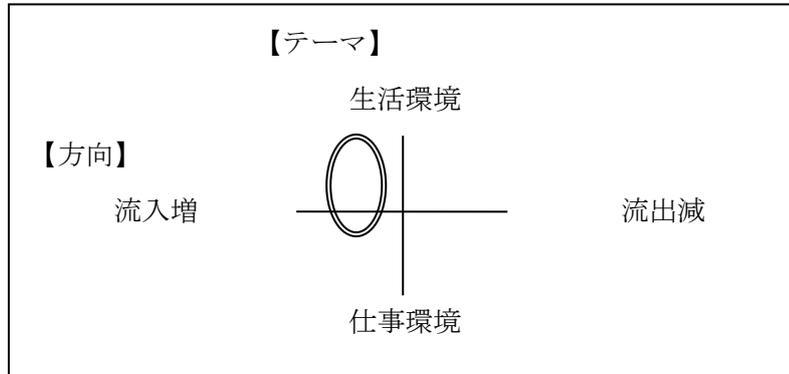


②人口減少について (グループ A)

<キャッチコピー> いらっしやいませ！環境の良い大月へ

都会に比べて、山、川などの自然環境が良いので、それを売りにして、住みやすさをアピールした方が良い。

<ポジショニング・マップの設定軸>

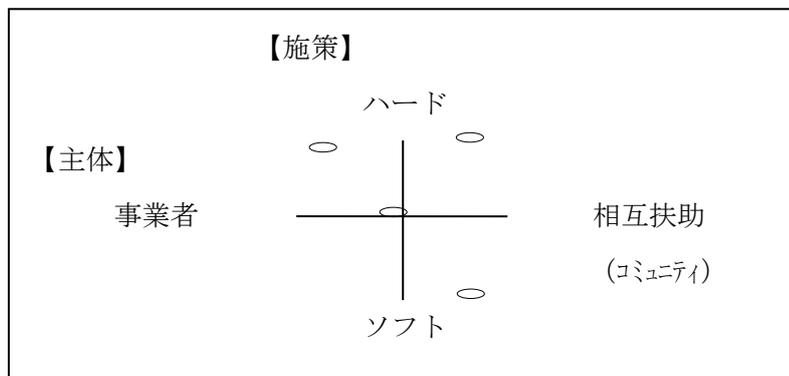


③結婚、出産、子育てについて (グループ C)

<キャッチコピー> 家も子どももシェアしよう

・市内には空き家がたくさんあるが、借りるには家賃がかかる。この空き家をシェアして、子育てに活用しよう。

<ポジショニング・マップの設定軸とアイデア傾向>

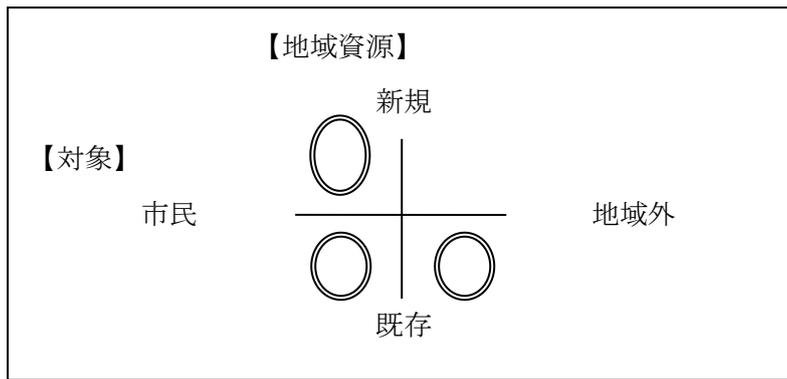


④暮らしやすいまちづくりについて (グループ B)

<キャッチコピー>

- ・ 高齢化の対策 (バス・買い物弱者) (マップ左上の傾向・分析結果)
- ・ 空き家、廃校、空地の地域資源の有効活用 (マップ左下の傾向・分析結果)
- ・ 外部からの観光客の誘致を図るための新しい施策の実行 (マップ右上の傾向・分析結果)
- ・ 既存の観光資源を見直しと情報発信 (マップ右下の傾向・分析結果)

<ポジショニング・マップの設定軸とアイデア傾向>

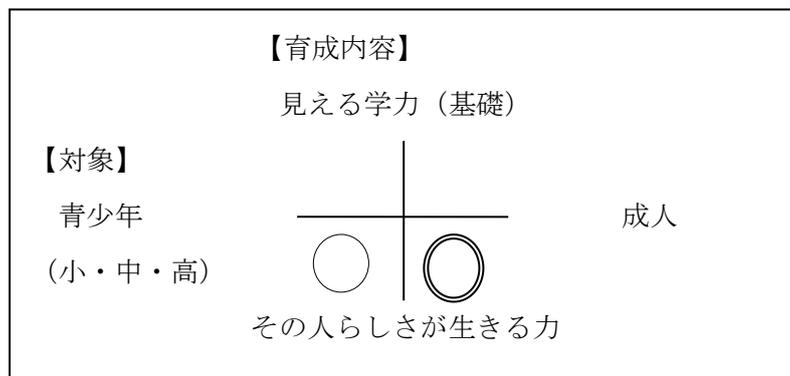


⑤人材育成、郷土愛を育む教育について (グループ C)

<キャッチコピー> 大月を愛し大月を育てる人づくり～世界に通じる大月人～

- ・大月ならではの子どもたちの教育（人間力も含む）ということと、成人に対しての市民活動や教育プログラム等があり、大月を育てる人材育成をしたらどうかという意見があったのでまとめた。子どもたちには、大月の歴史・文化を知ってもらい、大月を愛してもらおう。また、そんな子どもたちを育てる人材を育てていこう。

<ポジショニング・マップの設定軸とアイデア傾向>



【ワークショップ総括】

この結果については、佐藤副議長が再度整理し、まとめたものを皆さんにお知らせし、よろしければ市へ提示する。

(3) 部会設置の提案

今後は、特定のテーマを自主的に掘り下げて検討したい委員を募り、その委員が核となって小さなグループ（部会）を形成し、基本目標のテーマに沿うプロジェクト企画【成果3】立案に向けて検討する方向で進めることとなった。

(4) 次回会議について

第7回会議 平成27年8月18日(火) 19時から市民会館4階視聴覚室で開催することとなった。